



副住職 松山 大耕さん

観光庁のVisit Japan大使や京都市の観光おもてなし大使として、改めて京都を眺めてみると、京都が“京都風”になっているのではと感ずることがあります。例えば、軒先の打ち水は、適量の水を千鳥に撒くというのが流儀ですが、これには「準備ができたので、どうぞお入りください」というメッセージが込められています。しかし最近では、その意味が失われて、ただ水を撒くことが京都らしさだと思われているのではないのでしょうか。私たちは「らしさ」ではなく、受け継がれてきた伝統を生かして、先人が紡いできた本当の京都の魅力を提供したいと考えています。奇をてらわず、ありのままを体験してもらうこと。私たちは素晴らしい伝統や文化を持っているのですから。



言葉を越えて
心で感じる
伝統文化

こころを込めて 我が社の おもてなし

宗教法人 退蔵院

代表者／松山 英照
住所／京都市右京区花園妙心寺町 35
TEL / 075-463-2855
URL / <http://www.taizoin.com/>

40余りある妙心寺の塔頭の中でも、屈指の古刹として知られる退蔵院。国宝「瓢鮎図」や史跡名勝「元信の庭」など、見どころがたくさんあります。長い歴史の営みの中で、禅寺が培ってきた坐禅や書道、茶道、精進料理…。数年前、これらを英語で体験してもらう取り組みを始めたところ、世界中から多くのお客様が訪れるようになりました。初めて坐禅を組む人や筆を持つ人も少なくありませんが、畳の上に座り、茶の香りを嗅ぎ、墨に触れば、その楽しさや面白さは相手に直感的に伝わると思います。「おもてなしに難しい言葉や必要以上の指導はいりません」。

退蔵院では、坐禅であぐらが苦手という人に座椅子を用意し、また精進料理のメニューもそれぞれの国の文化や習慣に合わせて柔軟に対応しています。一人ひとりに寄り添って心を配る松山副住職のおもてなしは、気張らず、自然体。歴史的な建物や伝統文化の魅力だけでなく、体験を通じた温もりある触れ合いが、多くの人を惹きつけているのでしょう。

「出会いのご縁を大切にしたいですね」。
Clean your mind! 鈴の合図とともに、喧騒は消え、境内は静かな瞑想の時間に包まれます。

